

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★

## 九月に降る風 (九降風)

2009年・台湾、香港映画

配給/グアパ・グアポ、アジア・リパブリック・エンターテインメント・107分

2009 (平成21) 年7月23日鑑賞

松竹試写室

### Data

監督・脚本：トム・リン (林書宇)

脚本：ヘンリー・ツイ (蔡宗翰)

出演：リディアン・ウォーン (鳳小岳)

／チャン・チエ (張捷)／ジェニ

ファー・チュウ (初家晴)／ワン・

ポーチエ (王柏傑)／リン・チー

タイ (林祺泰)／シェン・ウェイ

ニエン (沈威年)／チウ・イーチ

エン (邱鈞澄)／チー・ペイホイ

(紀培慧)／リー・ユエチエン (李

岳承)／エリック・ツァン (曾志

偉)／リャオ・ミンシュン (廖敏

雄)／ブルー・イーテン (陸奕靜)

／リウ・ピンイェン (劉品言)／

クー・ユールン (柯宇綸)

## 👁️👁️ みどころ

1976年生まれのトム・リン (林書宇) 監督が、1997年の台湾新竹市を舞台に、みずみずしい青春群像劇を完成！高校時代は羽目を外すもの、ケンカするもの、恋をし、失恋するもの、そして悩むもの。

本作をみれば、誰でもそんな時代を懐かしく思い返すはずだ。しかし、大切なことは今を生きること、今を青春すること！決して、それを忘れずに！

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ■□■正しい理解の前提事実 その1 新竹市とは？■□■

本作は男7人女2人計9人の高校生が主人公となるみずみずしい青春群像劇だが、舞台が台湾だから、本作を正しく理解するための前提事実がある。その第1は新竹市。「九月に降る雪」や「九月に吹く風」ならわかるが、『九月に降る風』とは？こりゃ日本語的にはおかしい邦題だが、それは『九降風』という原題を忠実に翻訳したため？

それはともかく、そんな原題となったのは、本作の舞台となる台北から西南約70kmに位置する新竹市は強い季節風が吹くまちだから。そのため、新竹市は「風の城」とも呼ばれているらしいが、この原題だけで9人の主人公たちは故郷のまち新竹市を思い出すことができるわけだ。

### ■□■その2 リャオ・ミンシュン (廖敏雄) と野球賭博■□■

台湾は経済や軍事面では中国 (本土) に大きく遅れをとっているが、こと野球 (棒球) に関しては1枚も2枚も上。映画冒頭、チョン・シーイェン (鄭希彦) (リディアン・ウォーン/鳳小岳) をリーダーとする7人組の不良グループ (?) が新竹の球場にくり出し、時報イーグルスの4番バッターであるリャオ・ミンシュン (廖敏雄) を応援する姿が登場

する。彼は甘いマスクのため「棒球王子」と呼ばれていたから、日本で言えば王+長嶋+ハンカチ王子こと斎藤佑樹投手？他方、勝負の世界には八百長疑惑がつきもので、週刊現代の告発に端を発し、日本相撲協会と朝青龍らが講談社に損害賠償を求めた近時の大相撲をめぐる八百長疑惑騒動は記憶に新しい。日本のプロ野球では、1965年に後にプロゴルファーとなる尾崎将司らと共に西鉄ライオンズに入団し、1年目から20勝を挙げ新人王に輝いた西鉄の池永正明投手が野球賭博でクロとされ、永久追放された事件が有名だ。王や長嶋にはそんな疑惑はありえないが、台湾では1996年に黒社会が選手を巻き込んだ野球賭博事件が発生。リャオ・ミンシュンを含むイーグルスの主力選手多数がこれに関与していたことが明らかとなったため、イーグルスは1997年の前期優勝を最初で最後の栄光としてチーム自体が解散することに。

したがって、映画の冒頭7人組の憧れだったリャオ・ミンシュンの人気は地に落ち、リャオ・ミンシュンのベースボールカードを集めていた1年生のホアン・チョンハン（黄正翰）（リー・ユエチェン／李岳承）は映画のラストでは傷心の中これを破り捨てることに。リャオ・ミンシュンはこんな風に少年の心に与えた傷をいかに総括するの？

それはともかく、そんな少年たちのヒーローであるリャオ・ミンシュンの存在と台湾における野球賭博事件を知ることが、本作を理解するための第2の前提だ。

## ■台湾にも若手有望監督が出現！■

近時日本でも、『東南角部屋 二階の女』の池田千尋（28歳）、『ウルトラミラクルラブストーリー』の横浜聡子（30歳）、『不灯港』の内藤隆嗣（27歳）ら若手有望監督が次々と出現しているが、台湾でも蔡明亮（ツイ・ミンリャン）監督の『西瓜』（05年）などで助監督を務めていた1976年生まれのトム・リン（林書宇）が、本作で長編初監督としてデビューし、いきなり2008年台北映画祭審査員特別賞、メディア推薦賞、最優秀脚本賞、最優秀新人賞などを獲得した。

プレスシートによれば、本作はその80%が新北市生まれのトム・リン監督自身が体験した高校時代の物語らしい。つまり、彼と友人たち間で起きたさまざまなエピソードを盛り込み、それらを1つの物語として練り上げるために残りの20%にフィクションを混ぜて完成させたのが本作だ。そこで興味が湧くのは、トム・リン監督は7人の個性的な男



発売元:アミューズソフトエンタテインメント株式会社  
販売元:アミューズソフトエンタテインメント株式会社  
税込価格:3990円 (C)2008 Mei Ah Entertainment Group

の子のうちの誰かということ。一人一人の紹介はできないが、そんな興味をもって本作を観れば面白いのでは？

## ■□■イエンとタンの確執がストーリーの核■□■

本作は1997年という時代の台湾新竹市で多感な高校時代を過ごす7人の男の子と2人の女の子が織りなす青春群像劇だが、面白いエピソードがテンコ盛り。ここでそのすべてを紹介することはできないが、私が興味をもったのはストーリーの核となるイエンとタンの確執。7人組のリーダーは抜群の統率力をもち女の子にもモテモテの長身でカッコいいイエン。すると、ひょっとしてこのイエンがトム・リン監督のモデル？いや私の読みではそうではない。そう思っていると、案の定プレスシートによれば、トム・リン監督のモデルはイエンではなく、映画の冒頭、九月の風が吹く頃にあの懐かしい高校時代を思い出している秀才タイプで少し頑固そうな(?)タン・チーチン(湯啟進)(チャン・チエ/張捷)だ。

タンはイエンがイエンの彼女であるホアン・ユンチン(黄芸晴)(ジェニファー・チュウ/初家晴)を邪険に扱っているうえ、レンタルビデオ店でモンレン(孟倫)(リウ・ピンイエン/劉品言)と浮気(?)していたことに内心ムカムカしていたようだ。そんなこんなトラブルとさまざまなき違いによって、タンはいったん7人組と決別してしまったが、同級生のリン・チンチャオ(林敬超)(リン・チータイ/林祺泰)や落第したためまだ2年生のリー・ヤオシン(李曜行)(ワン・ポーチエ/王柏傑)らのとりなしによってやっと関係が修復。しかし、そんな日にイエンの交通事故が起きるとは……。これがタンの無免許運転によるものだったからその影響は大。そんなイエンとタンの確執が本作の核となるエピソードだが、トム・リン監督の高校時代も私と同じように波瀾万丈？

## ■□■ポケベルが新鮮！日本カルチャーにも注目！■□■

今や日本国内はケータイ中毒の若者であふれ返っているうえ、「ケータイ命！」の女の子も多い。そんな今ドキの中高生は、ポケベルと聞いても「そりゃ一体ナニ？」と言うのでは？しかし、1997年の台湾における7人の不良グループは、「ポケベル命！」だったよう。ポケベルの呼び出しがあれば何をさておいても集合。それが不良グループの鉄則だが、深夜に呼び出されて学校のプールに行き、素っ裸で飛び込むとはちと羽目を外しすぎ？仲間意識は大切だし、エネルギーも大事だが、あまり暴走するとヤバイ。せめてこれくらいで止めておかなければ・・・。

他方本作を観ていると、台湾は日本カルチャーの影響を大きく受けていることがわかる。タイムリーなのは、2008年12月に36歳の若さで亡くなった飯島愛の登場。1997年の台湾でも飯島愛が若者のアイドルとなっていたことがよくわかる。飯島愛のAV界での華々しい活躍は私もよく知っているが、96年夏の引退は惜しまれたものだ。その他、12年前の台湾における日本カルチャーあれこれに注目しながら、本作を楽しみたい。

## ■□■いつまでも青春しくちゃ！■□■

高校生活は3年間しかないし、大学生活も4年間しかない。誰でもその当時はその世界がすべてであり、その時間がいつまでも続くと錯覚しているが、現実はそのようではなく、10年、20年経てば「あれは一瞬の青春時代だった」と思い知らされるはず。そしてよくあるのは、今の抑圧された(?)生活と対比して、「あの頃は良かったなあ」と感慨深く青春時代を思い出すパターン。本作のスタートもタンのそんなシーンから始まるが、さて成長したタンは今どんな生活を?高校時代に、あんな優等生タイプで頑固そうだった、そしてイエンを交通事故で死なせてしまったことで大きな心の傷を負ったタンが成長し、30歳になった姿がトム・リン監督自身?

必ずしもそうではないだろうが、大切なことは青春を思い出すだけではなく、いつまでも青春すること。トム・リン監督はこんな映画づくりによって青春しているのだから、本作を鑑賞した人はそんなトム・リン監督を見習い、いくつになっても青春しなくちゃ。私は60歳になった今でも十分青春しているつもりだが、本作を観て更にそのエネルギーが倍增。トム・リン監督ありがとう!

2009(平成21)年7月25日記

日本では政権交代の強風が吹き荒れたが、「九降風」という強い季節風で有名な台北の西南角にある台湾の風の城。新竹市ではこんな男が? また日本ではワイルドな「ROOKIES」卒業「1」や「1/2」が「HIT」だが、本作が描く1996-97年の新竹市高校生たちはもったいなく? 2008年台北映画祭最優秀新人賞などを獲得した16年生まれの林書宇監督の等身大の体験談をもとに回想される男7人、女2人の青春群像劇は瑞々しい。

7人の不良グループの中心は長身のイエン。ポケベル命の彼らはイエンの指令でプロ野球時報イグレスの4番打者廖敏雄を追かけた。深夜プールに集合してはしげげと大忙し。

日本では政権交代の強風が吹き荒れたが、「九降風」という強い季節風で有名な台北の西南角にある台湾の風の城。新竹市ではこんな男が? また日本ではワイルドな「ROOKIES」卒業「1」や「1/2」が「HIT」だが、本作が描く1996-97年の新竹市高校生たちはもったいなく? 2008年台北映画祭最優秀新人賞などを獲得した16年生まれの林書宇監督の等身大の体験談をもとに回想される男7人、女2人の青春群像劇は瑞々しい。

7人の不良グループの中心は長身のイエン。ポケベル命の彼らはイエンの指令でプロ野球時報イグレスの4番打者廖敏雄を追かけた。深夜プールに集合してはしげげと大忙し。

**これが青春! 10年前の台湾高校生**

まことに青春劇の只中だ。監督のモデルは、恋人を巡ってイエンとの確執を深めていく真面目タイプのタン? 10代は傷つきやすいが同時に率直だから、きつかりえあれば関係修復は可能。だがそこにバイクの無免許運転による交通事故が絡み入り、仲間の死にという重大な結果を招いてしまえばそれも不可能に? 政権交代成った日本9月

は大感動だが、あの9月チェンたち9人のグループにも激変が。のりピーと酒井法子の覚醒刑事件は多くの若者の夢を奪ったが、台湾プロ野球「棒球王子」の野球賭博! 黒鷹事件が高校生たちに与えた失望感も深かった。また台湾は日本アニメや漫画の影響が顕著だが、本作が90年夏に「飯島愛」のAV界からの引退」が仲間の話題となっていることにビックリ。本作を観れば、あ

©2008 Mei Ah Entertainment Group

る種のタイムスリップ感覚も?

中国との経済交流の進展による一体化、中国の軍事力の膨大の脅威、馬英九政権の支持率急落と現状は厳しいが、タンのような若者が育てば台湾の前途は洋々、懐かしく青春時代を回想しながら、林書宇監督のよう今を生き、今を青春しなけれ

は大感動だが、あの9月チェンたち9人のグループにも激変が。のりピーと酒井法子の覚醒刑事件は多くの若者の夢を奪ったが、台湾プロ野球「棒球王子」の野球賭博! 黒鷹事件が高校生たちに与えた失望感も深かった。また台湾は日本アニメや漫画の影響が顕著だが、本作が90年夏に「飯島愛」のAV界からの引退」が仲間の話題となっていることにビックリ。本作を観れば、あ